

り前の事かもしれませんが、すべての瓦を落とさずに手で持って下ろしてもらいました。なぜかという、瓦の裏に奉納者のお名前が書いてあるんですよ、それを割ってしまっちは、その時寄進して下さった人の気持ちに沿うことではないから、何とか壊さずに下ろしてほしいとお願いしました。その瓦を境内の庭の花壇の柵に使わせてもらったんです。やはりこのお寺を守ってくださっている方に対する感謝の意とせめてもの管理者としての義務だろうと思います。

### －今でも地元の方々の距離が近いわけですね。

少しでも時間を見つけて、地域との交流を増やそうと思っています。毎年、本堂で音楽会をやっているんですよ。この音楽会を通じて、一人でも多くの方に文化財としての本堂に入る経験をしてほしいと思っています。そして「おらが町に大悲願寺というところがあって、おらが寺みたいなもんだよ」と言っていたらいい、それが本当のお寺と住民との接点だと思います。音楽会では最初にまず住職の挨拶がありまして、この大悲願寺を好きになってもらえる話ができるわけですね。今回の彩色していただいた観音堂の彫刻にも意味のあるものがたくさんあるんですよ、皆さんの生活の中にもっていくことができる話をさせていただける、そうすると、「今度、彫刻を見に行こうよ」と、今度は全く来たことのない人も誘って来られると思います。そうすることによって、「おらが町のおらが寺」のような存在になることが一番大切だと思うんですね。



観音堂(東側)欄間彫刻「司馬温公花瓶割りの図」

司馬温公は中国北宋時代の政治家で、子供の時分、友達と遊んでいたところ仲間の一人が誤って水がめに落ちてしまった際には、石を投げて水瓶を割り、水を抜いて仲間を救い出した話が残っています。例え高価な瓶とはいえ、人命の尊さを謳った有名な故事です。



観音堂(南側)欄間彫刻「孟宗」

孟宗は、中国故事「二十四孝」の一人。「筍が食べたい」という病床の母の頼みで、孟宗は真冬に筍を探りに行きます。冬にあるはずもない筍を探し、天に祈りながら雪を掘っていると、あっという間に雪が融けて土の中から筍がたくさん出てきました。それを母に食べさせると、病氣も癒えてすっかり元気になったという親孝行を謳った話です。

### －御住職様はあきる野市の教育委員長もされていますが、「文化財と学校教育、地域学習」の在り方や可能性について、お考えをお聞かせ下さい。

はい、これは、私の目的とするところなのですが、まず、私が委員長を始めて、学校の先生と会う機会が多くあります。そういう時に先生方に必ず言うことは、「自分の赴任した学校を好きになってもらうためにどうしたらいいか考えてください、そして同時に地域のことを知らない限り、その学校を愛することはできません」ということです。

また、今の子供たちに「国際人になれ」といいますが、国際人になるということは、まず自分のこと、自分の地域、学校そして自分の国のことを知り、愛し、誇りを持つことです。まして、先生が自分の地域のことを知らなくては、子供たちに何を教えられるの？ってね。例えば、漢字を教えるのでも、「近くにこういうお寺があるじゃない、あそこの字がこうなんだよ。」と地域をくつつけて教えることで、子供たちはすごく興味をもってくれると思う。そういう意味からも、先生は地域のことを知るべきですね。私は小中学生が地域について学ぶ中で、お寺に来たいよって言ったら、いつでも開けて、この地域のこと、お寺のことを話しているし、そういう子供たちが来たときには、やはり大人たちが対応してあげなくてはいけない、対応するのは私らでもあるし、親でもあるし。

また、大悲願寺は保育園もありますから、園の子供たちも2月15日のお釈迦様がなくなった日(涅槃会)には、本堂の中を全部歩いて説明してあげています。今は、わからなくても、その時経験しておけば、小学生、中学生になった時、「大悲願寺いったことあるよ、あそこの暗い部屋に入ったよ」って。それがわかれば、次にまた興味が沸いてきますからね。

### －たぶんそれが心の原風景になっていくんでしょうね。

私が法事の時に子供たちに話すのは、今日ここにおられる御先祖のおかげで自分の命があるんだよということです。法事は、仏事であることには変わりはないけれども、僕は「御先祖に対する感謝デー」と言っているんです。自分の命をくださった先祖に対する感謝の日なんだよということを必ず話をしています。御先祖の誰か一人がいなくても、自分の命は無いわけだから、経験させて座らせて、参加をさせることが必要なんですよと、僕は言ってるつもりです。

### －文化財についても、守り伝えていこうとする先人たちの想いが繋がって貴重な文化財が現在の私たちに受け継がれているんですね。感謝して大切に次代へ受け継いでいきたいと思います。

今日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

